

## 第 11 回国際シンポジウムの講師よりお返事をいただきました！

第 54 回日本作業療法学会の国際シンポジウムでは、2022 年 WFOT 学会開催国であるフランスよりフランス作業療法士協会副会長 **Guillaume Pelé 氏** を講師としてお招きしました。シンポジウムに寄せられた皆さんからのコメントやご質問を Pelé 先生にお送りしたところ、お返事をいただきましたので、皆さまにご紹介いたします。



フランス作業療法士協会 副会長 Guillaume Pelé 氏

お互いに第二言語でのコミュニケーションのため分かりづらい部分がありますが、どうかご容赦ください。（翻訳：国際部国際シンポジウム小委員会）

### JAOT の皆さんからの主なコメント

- \* Merci pour votre conférence, Dr. Pele. Actuellement j'apprends un peu de français. J'aimerais vous rencontrer à Paris. J'attends avec impatience l'ouverture. (ペレ先生、ご講演ありがとうございました。実はフランス語を勉強しています。パリでお会いしたいです。学会開催を楽しみにしています。)
- \* 非常に興味深い講演ありがとうございました。2022 年パリに行きたいです。
- \* ご講演ありがとうございました。フランスの作業療法については今までほとんど知識がありませんでした。フランスの OT の現状を知ることができ、視野が広がりました。

**JAOT:** 「作業療法」という仕事は、一般の人や高校生にどの程度認知されていますか？日本では、まだ十分に認知されていない状況です。

**Pelé 先生:** それはフランスでも少し同じです。作業療法士の養成校やフランス OT 協会の委員は、学生や一般向けのイベント、テレビ番組や出版物なども用いて宣伝をし、認知度を高める努力をしています。

**JAOT:** フランスは非常に多様性のある国だと思います。セラピストが多様性を持った人々と働くために何か特別な課題や問題はありますか？ 私たちは言語の問題に直面しているのではと思いますが、クライアントとコミュニケーションをとるとき、どのようにコミュニケーションをとっていますか？

**Pelé 先生:** 私たちの患者やクライアントの多くはフランス語を話せます。ですので、このことについての難しさに関する現場からのフィードバックや報告は特にありません。

**JAOT:** フランス国外で働いたり、また逆に他の国から入ってくるセラピストはいますか？ セラピストの数は出ていく方と入ってくる方のどちらが多いですか？

**Pelé 先生:** ベルギーからたくさんの OT が来ています。スペインやアルジェリアからも少し来ています。フランスの OT は主にカナダとスイスに働きに行っています。イギリスとスペインにも少し行っています。

**JAOT**：フランスではPT,OT,ST,心理士の役割がはっきり分かれていますか？日本では曖昧なので時折問題が生じます。

**Pelé 先生**：フランスでもかなり曖昧ですね。公衆衛生法だけが、訓練やスキルを区分しています。私たちは、作業科学にもとづいて、作業療法士の役割を説明し、明確にアピールするよう力を入れています。中央の保健当局 HAS (Haute Autorité de Santé、高等保健機構)には物事を明確にする役割があり、それぞれの職種の仕事は公衆衛生法に記載されています。(しかし、それが十分ではなく、現場には緊張状態があるかもしれません、、、)

**JAOT**：在宅ケアや訪問 OT サービスの分野で OT はどのようなサービスを提供していますか？

**Pelé 先生**：リハビリテーションは家庭、生活の場、学校などで行われ、特に子供が多いですが、それだけでなく、高齢者やアルツハイマー病の方なども対象者になります。脳挫傷、脳卒中などのあらゆる疾患が対象となります。そのほかに、専門家の統合(?) (Professional integration)、住宅改修、予防プログラムなども行なっています。

**JAOT**：COVID-19 が蔓延する中、フランスでも OT 教育や医療サービスの提供においてリモート技術を利用していますか？

**Pelé 先生**：授業とチュートリアルは遠隔教育で行なっています。臨床実習は、主に IFE という教育機関では、対面のまま行われています。ケアサービスの提供については、この危機的な状況下では、他のリハ職種同様、遠隔で実践を行ってもよいというやむを得ない承認を得ています。

**JAOT**：フランスの作業療法士の開業権に興味があります。開業している作業療法士は具体的にどのようなサービスを提供しているのでしょうか？

**Pelé 先生**：開業は、主に小児分野ですが、成人の分野も伸びています。現在懸念していることは、行政が都市部のサービス費用について保険での償還を行っていないことです。

**JAOT**：開業や個別診療を行うために必要な条件はありますか？

**Pelé 先生**：賠償責任保険に加入している必要があります。もちろん、作業療法士の学位や会社の登録も必要です。

**JAOT**：日本では、クライアントの作業療法を行う際に、医師の処方箋が必要です。自分で診断することはできず、医師の承認なしで診療を行うことができません。OT が日本で開業することは難しいです。フランスでも同じような問題はありますか？

**Pelé 先生**：はい、私たちも処方箋にもとづいて仕事をしています。発展途上のプロジェクトなど(?)では、直接(処方箋なしでも)アクセスできることがあります。フランスでも医者のみが直接アクセスすることができます。

**JAOT**：フランスの作業療法で、どのような領域が、今後発展と成功の可能性があると思いますか？

**Pelé 先生**：私たちは都市部での OT の開業がより認知されることを望んでいます。また、福祉用具の処方業務が、OT の仕事として可能性があると考えています。また都市部の作業療法士の活動が保険で償還されることや、修士レベルの作業療法士が増えていくことに期待しています。